

財務体質の強化

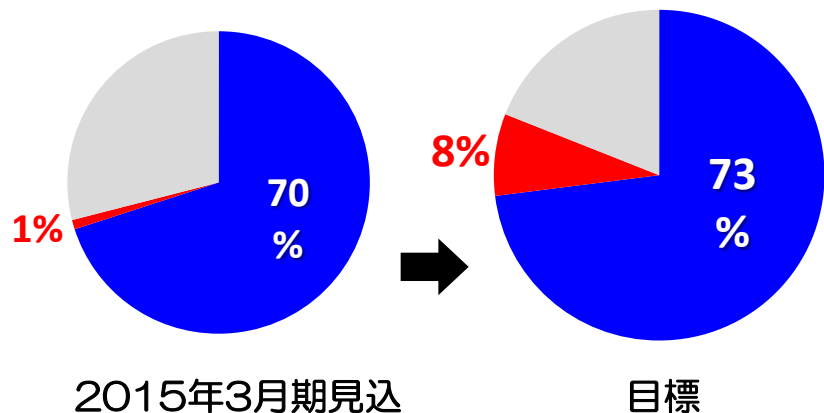
執行役員
桃塚 高和

- ① 重点事業拡大による収益性の向上
- ② 一般管理費および研究開発の効率アップ
- ③ 財務戦略

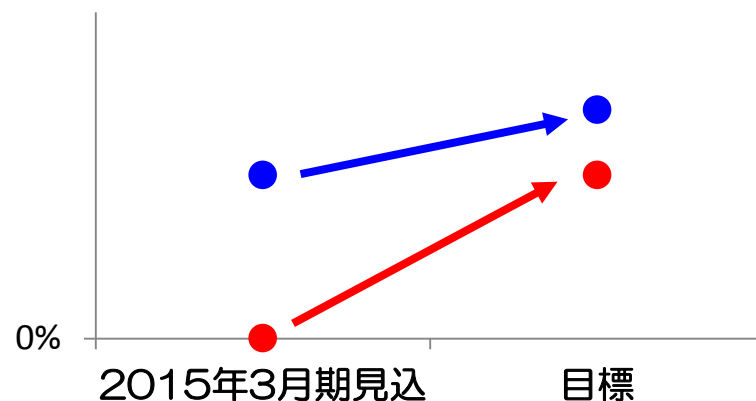
重点事業

■ 重点5事業 ■ 新規事業 ■ その他

事業規模の拡大（売上構成比）

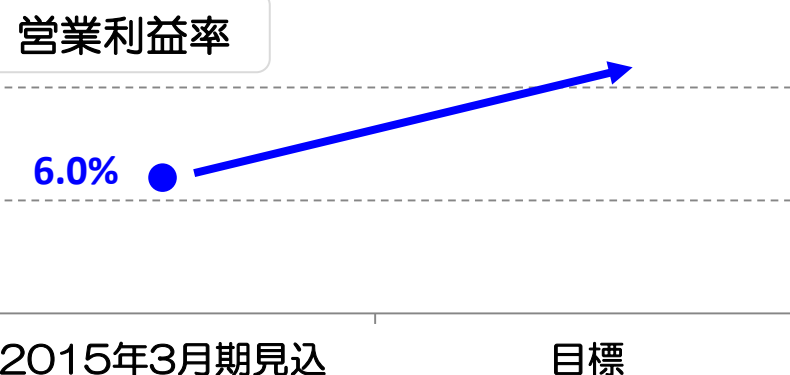


収益性の向上（営業利益率）



全社

	2015年3月期見込	目標
営業利益率	6.0%	10%以上



2015年3月 期見込	売上比率
販売 管理費	12.5%
開発費	6.5%
SGA 合計	19.0%

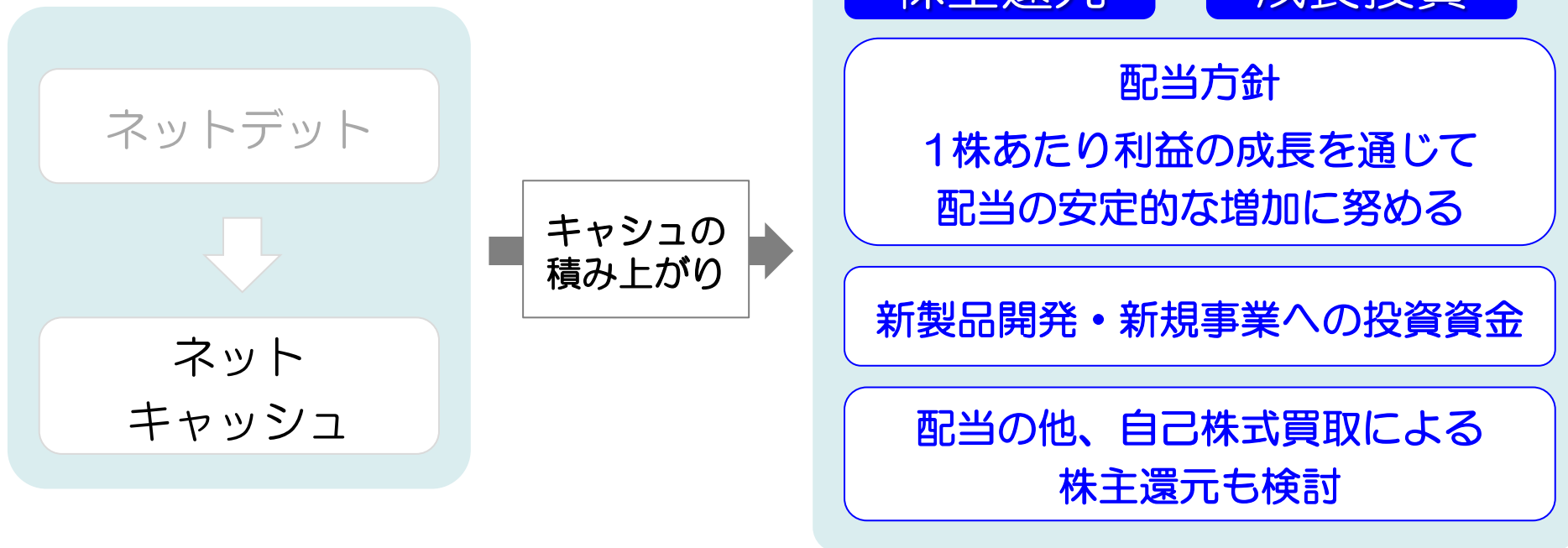


施策

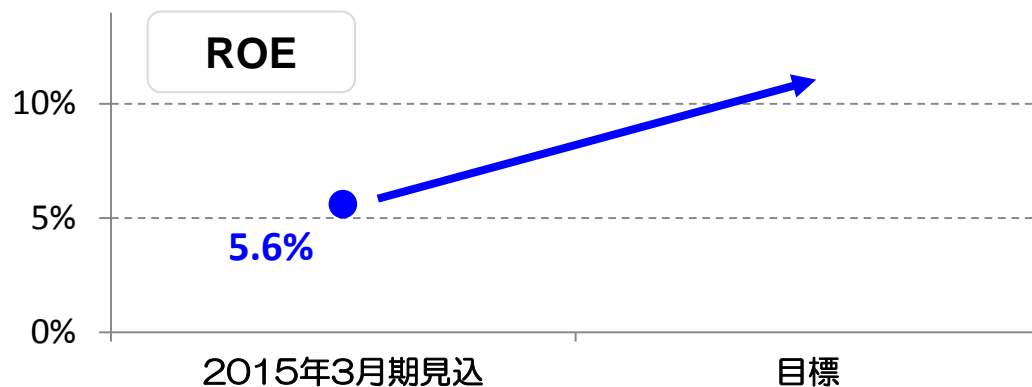
- ✓ **本社機能改革推進**
 - 権限移譲によるスピード経営
 - サービス部門集約による効率化
- ✓ **本社研究開発体制見直し**
 - グローバルR&Dへシフト
 - 事業自部門での開発による事業強化
 - 本社による中長期開発テーマ推進



一般管理費率の引き下げと開発効率アップによる収益力の向上



	2015年3月期 見込	目標
ROE	5.6%	10%以上



この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといたします。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。

